

タカラバイオ株式会社  
2022年3月期 第2四半期決算(補足資料)

1. 2022年3月期 第2四半期決算について

【決算短信 10 ページ】

(売上高)

- ・ 売上高は、315億5,100万円となり、前期比141億5,800万円(81.4%)の増収となりました。
- ・ 「試薬」は、259億6,600万円となり、前期比126億2,900万円(94.7%)の増収となりました。一般研究用試薬の売上高は、約139億円(前期93億円)、新型コロナウイルスPCR検査関連製品は約120億円(前期40億円)となり、ともに前期実績を上回りました。また、一般研究用試薬は、回復基調にあり、新型コロナウイルスの影響を受けていない、2020年3月期第2四半期を上回りました。
- ・ 「受託」は、47億3,200万円となり、前期比13億5,800万円(40.3%)の増収となりました。再生医療等製品関連受託、遺伝子解析・検査受託がともに増加し、ワクチン関連受託も加わりました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は234億9,500万円となり、前期比116億6,700万円(98.6%)の増益となりました。
- ・ 増収および受託事業の原価率低減の影響により増益となりました。

(販売費及び一般管理費)

- ・ 販売費及び一般管理費は、93億8,900万円となり、前期比12億9,800万円(16.1%)の増加となりました。研究開発費、人件費などが増加しました。

(営業利益)

- ・ 営業利益は、141億500万円、前期比103億6,800万円(277.5%)の増益となり、過去最高となりました。

2. 2022年3月期 通期業績予想について

【決算短信 11 ページ】

(売上高)

- ・ 売上高は593億円と、前期比132億1,300百万円(28.7%)の増収予想です。
- ・ 「試薬」は、463億7,500万円と、前期比111億8,600万円(31.8%)の増収予想です。一般研究用試薬は約283億円(前期221億円)、新型コロナウイルスPCR検査関連製品は約180億円(前期130億円)と予想しています。
- ・ 「受託」は、113億8,800万円と予想しています。これは、前期比24億8,600万円(27.9%)の増収予想です。再生医療等製品受託サービス、遺伝子解析・検査受託ともに増収予想です。再生医療等製品受託サービスにはワクチン関連の製造受託を含んでいます。

### (営業利益)

- ・ 営業利益は、200 億円、前期比 60 億 4,700 万円(43.3%)の増益を予想しています。達成時は13期連続増益となります。

### (期末配当)

- ・ 期末配当は、前回予想(8月3日)の1株20.00円から、4.00円増やし24.00円に予想を修正します。これは前期の1株あたり16.00円から8.00円の増配となります。(当社第20回定時株主総会決議前提)

## 3. 新型コロナウイルス関連事業の状況について

- ・ 国内では、医療機関、検査機関向けにPCR検査キットを販売しています。また、分子疫学的調査では変異株の遺伝子変異検出用の研究用試薬や全ゲノムシーケンス受託など、ニーズに応じた製品・サービスを迅速に開発し、安定供給に努めています。海外では、欧州においてCEマークを取得し体外診断用医薬品の販売を開始しました(2021年10月)。その他、検査薬企業や検査ラボ向けにPCR酵素のバルク供給やOEM製品の供給を積極的に行っています。
- ・ 2022年3月期第2四半期のPCR検査関連試薬の売上は約120億円となりました。通期では約180億円の売上見込みです。

### ご参考:PCR検査関連試薬の売上

	上期(6か月)	下期(6か月)	通期(12か月)
21/03期	40億円	90億円	130億円
22/03期	120億円	60億円(予想)	180億円(予想)

- ・ 新型コロナウイルスワクチン関連では、アンジェス(株)が開発を進めるDNAワクチンの他、複数のプロジェクトを受託しています。これらプロジェクトの売上は「受託」に区分して公表しています。この度、VLP Therapeutics Japan 合同会社とレプリコン(次世代 mRNA)ワクチン原薬の製造委受託に関する基本契約を締結しました。(2021年11月4日公表)

## 4. 日本・米国における設備投資の状況について

### (日本)

- ・ 本社事業所(滋賀県草津市)では、体外診断用医薬品や試薬キットの重要コンポーネントの製造体制の整備を進めていましたが、10月に稼働しました。整備にあたっては、経済産業省「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」を活用しました。
- ・ ワクチンを含むウイルスベクター等の再生医療等製品の製造体制の整備を進め

ています。この内、DNA ワクチン用のプラスミドベクターの製造設備については、2022年4月に本格稼働予定です。整備にあたっては、厚生労働省「ワクチン生産体制等緊急整備事業」の支援を受けています。

#### (米国)

- ・ 米国子会社の Takara Bio USA Inc.では、カリフォルニア州サンノゼ市の新拠点への移転を8月に完了し、活動を開始しました。
- ・ 従来、本拠点では、マーケティングおよび研究開発活動を行っており、これを機会に米国ユーザー向けに OEM 製品、バルク製品の製造も行い、米国内の需要に柔軟かつ機動的に対応します。

#### 5. 大塚製薬(株)との「腫瘍溶解性ウイルス HF10」および「CD19・CAR 遺伝子治療薬」に関する共同開発・独占販売契約の終了について

- ・ 大塚製薬(株)との「腫瘍溶解性ウイルス HF10 開発及び販売に関する契約」および「CD19・CAR 遺伝子治療薬共同開発及び販売に関する契約」の両契約を終了することを本日付で同社と合意しました。なお、NY-ESO1・siTCR<sup>®</sup>遺伝子治療薬(2018年4月9日に共同開発・販売契約締結)に関しては、引き続き両社で開発を進めてまいります。
- ・ 詳細は、本日発表の当社ニュースリリースをご覧ください。

#### 6. 東証新市場選択について

- ・ 2021年9月21日に東京証券取引所対し「プライム市場」の選択申請を行いました。

以上